



喜多堂

第二回大阪大空襲七十年

第二回大阪空襲があった昭和二十年六月一日から、今月一日で七十年となります。

この日の午前九時二十八分に、グアムからやってきた五〇九機のB29が大阪港に襲来。大正区、福島区、港区に焼夷弾を投下し、次いで、この梅田や天満方面にも焼夷弾を落とし、あたりは火の海と化しました。

当時、木造檜皮葺の社殿であった当宮の御本殿も罹災し、事前に避難していた御神宝の御網と御影、そして燃えなかつた石造物、あといくつかの神具類を残して、残りは全て灰燼に帰してしまいました。

この時に貴重な史料類の多くが焼けてしまい、梅田の地誌を調べる上で大きな損失となったのをはじめ、また当地がかつて海に面していた事を示していた船神輿という独特のお神輿や、一夜にして生えたという七本松の遺木も焼けてしまい、まさに地域文化を根絶やしにされたかのような被害でした。当宮は過去に、南北朝の乱、石山合戦、大坂の陣でも大きな被害を蒙りましたが、この大阪空襲はそれらを遥かに上回る被害でした。

この大阪大空襲の凄まじさを伝えるものの一つに、当宮の狛犬があります。

神山町の御本社本殿前の、正面向かって右側の狛犬の、尻尾の部分が大きく溶解したあとがあります。戦後コンクリートで補修されましたが、焼夷弾の熱によって溶けたあとはそのままになっており、焼夷弾の凄まじさがわかる貴重な証人ともいえる狛犬です。

現在の梅田は戦後からの復興や、また近年の再開発によって、戦争の爪痕というものはまったく分からなくなっていますが、この戦災の狛犬は今も黙って私達に梅田における戦争の悲惨さを伝えていきます。

戦後七十年の今年。当時成人を迎えた方も今では九十歳です。いよいよ当時の事を知る方も少なくなつてこられました。ぜひこの機会にお話を聞いておきたいものです。

七夕祭中止のお知らせ

毎年、茶屋町の御旅社で執り行つております七夕祭ですが、境内の階段上にありますコンクリート製の玉垣がこの一年で急激に劣化し、破損箇所が大変多い為、欠片などが参拝者の頭上に落下する恐れがある事から、七夕祭における大勢のご参拝者に万一の事故があった場合を想定し、大変恐縮ながら、今年の七夕祭は中止とさせて頂きます事、何卒ご理解賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。来年にはご齋行出来るよう、今後境内整備を進めて参る所存です。いつもお楽しみにされておられる氏子崇敬者、またご参拝の皆さまには心からお詫び申し上げる次第です。

白龍社 損壊被害について

先月十八日、神山町の御本社末社である白龍社の扉が、何者かにより壊されました。恐らく殴打したものと思われ、ガラスが飛び散るなど、大変ひどい状態となりました。

先月末に修理の方を執り行い、現在は普通にお参り頂けます。

ただ、この白龍社は一昨年に放火に遭い、またそれ以前にも賽銭泥棒をはじめ、様々な被害があり、その度に防犯体制を強化して参りましたが、これほどまでに被害が頻発しますと、もはや神社だけでは対応の限界に達しており、現状大変難儀している次第です。

今後、もしご参拝の皆さまの中で、いつもと様子が違うな、不審者がいた、というような事を見受けられましたら、ぜひ神社までお知らせ下さい。(留守の時には何かメモのようなものでも結構ですので、社務所の郵便受けにご投函頂けましたら幸いです)

お宮はその土地の顔ともいいます。その顔を傷つける行為には、皆さまのご協力を頂いて厳正に対処して参りたいと思います。

神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ソフトバンク、
au、モバイルPC 対応



編著 網敷天神社 禰宜(神主)

白江 秀 知

